

## 止まらない皆伐―すばらしい天然林、生物多様性が消滅

環境省が国立公園化を決定し地元が世界遺産へとわき上がっている時に、今年は皆伐ないと思っていたが、よもやの伐採が人知れず行われていた。それも希少種も生息する見事なイタジイを主とする天然林が血も涙もない人間によって戦場を思わせる、一木一草残さず生物多様性が消失させられた。

環境省の国立公園区分案は明らかに森林組合との談合の結果で、国のお墨付きで伐採が行われるようになった。昨年の謝敷林道入り口近くの皆伐、今年の皆伐地は5ヘクタール程度で、2種保護区に指定されているが、本来特別保護区に指定される森である。希少種も豊富で、毎年観察や撮影に訪れる豊かな森で、生産性のない施行、補助金目当ての林業といわれる事業が永遠に続く。



2016年3月、新緑息吹く豊かな森。左奥に与那覇岳遠望。

(定点撮影平良克之)



2016年10月16日。わずかに右手前の小さなハゼノキが痛々しい。

(定点撮影平良克之)

## 豊かな森が消えた―やんばるの森に未来はあるか

謝敷林道沿いの村有林は皆伐され続けている。この周辺は佐手鳥獣保護区に指定されるなど豊かな森であった。当然、環境省国立公園特別保護区に指定されるべき森であるが、森林組合との談合の結末である。



二〇一六年年三月新緑の息吹、希少種の宝庫。与那覇岳遠望

(定点撮影平良克之)



二〇一六年十月一六日。無残、手前に小さなハゼノキが残されている。

(定点撮影平良克之)